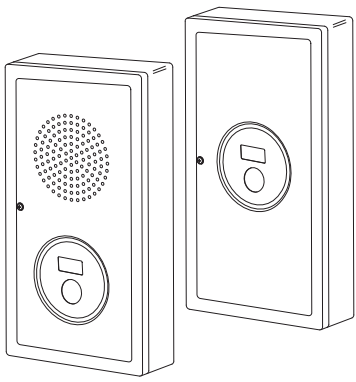


NOHMI FWLJ007(A/B)シリーズ機器収容箱 施工説明書



はじめに

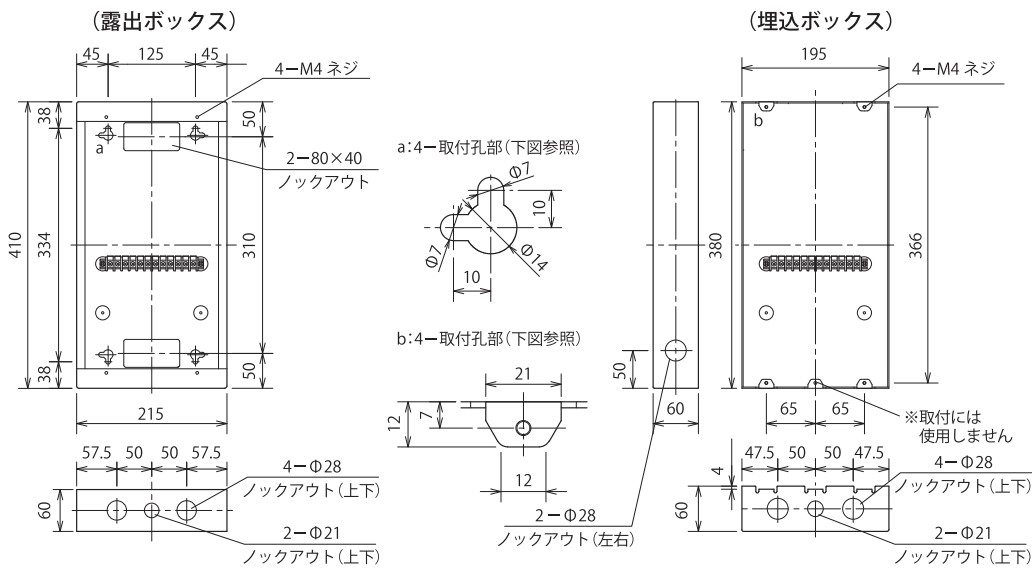
- 機器収容箱を正しく施工していただくために、設置工事を実施する前にこの施工説明書をよくお読みください。
- 施工後は、この施工説明書を大切に保管してください。
- 発信機の押ボタンの高さが、床面から 0.8 ~ 1.5m の範囲になるよう取り付けてください。
- 周囲温度が -10℃ ~ 40℃ の所に設置してください。(非常放送対応型は -10℃ ~ 50℃)
- 本製品(プレート)はボックス(別手配)と組み合わせて使用します。
- この機器収容箱は、縦型での使用が標準です。(横型としても使用できます)

■ プレート梱包箱内の付属部品など

梱包箱の中には次の付属部品が入っています。梱包箱を開けた際には、まず付属部品が揃っているか確認してください。

- ◆ 施工説明書(本書)..... 1部
- ◆ M4×16ネジ..... 4コ

■ 取付寸法図



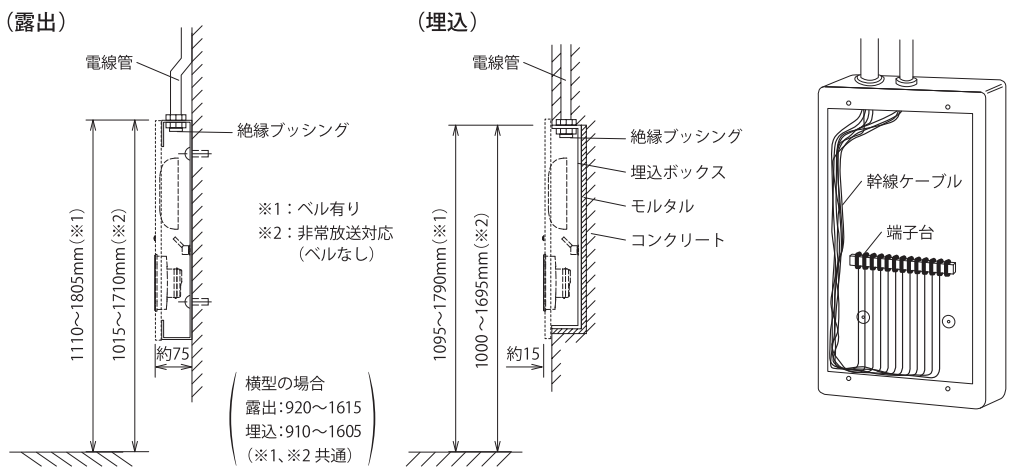
注意 機器収容箱はその重量に十分耐えるように強固に取り付けてください。強固に取り付けなかった場合、脱落を引き起こし、けがや故障の原因になります。

■ 機器収容箱の取り付け方法

1. 取り付け場所の配管方法に応じてボックスのノックアウトをあけます。

2. 壁面にボックスを取り付けて、配管を行います。

- ① 床面からの高さは、下図に従って取り付けてください。
- ② 端子位置は、縦型が下で、横型は左にしてください。



3. 幹線ケーブルを入線・処理し、各端子に結線します。

- ① 幹線ケーブルは、左側に寄せて処理してください。
- ② 固定具・結束バンドなどで幹線ケーブルを処理します。
- ③ 各端子に結線します。

注意 各端子への外線接続は、所定の定格容量・極性に従って正しく行ってください。誤った場合、故障や発火の原因となります。

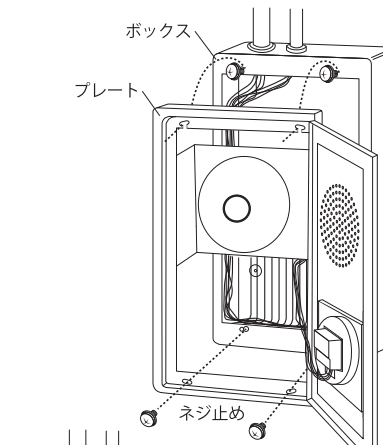
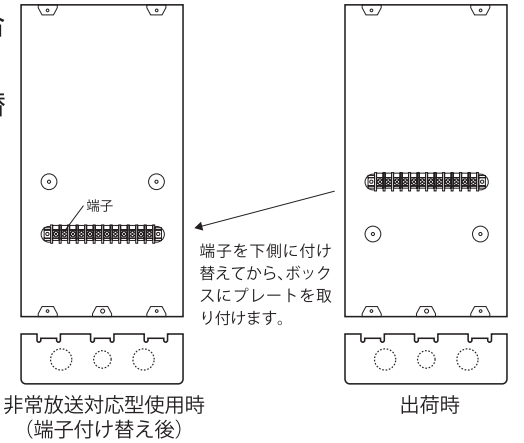
注意 濡れた手で機器収容箱の内部や幹線ケーブルに触れないでください。感電のおそれがあります。

4. ボックスにプレートを取り付け、プレート側のリード線を端子に差し込んで結線します。

- ベルありタイプの場合は出荷時のまま、ボックスにプレートを取り付けます。
- 非常放送対応型(ベルなしタイプ)の場合は、ボックス内の端子台を下側に付け替えてから、ボックスにプレートを取り付けてください。端子台を付け替えないと、発信機と干渉します。

○ 非常放送対応型(ベルなしタイプ)の場合(例:埋込ボックス)

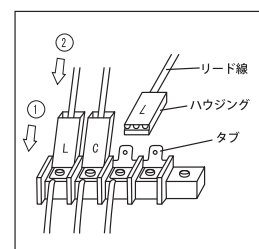
※露出ボックスも同様に端子台を付け替えてください。



- 1 付属ネジ(M4-16×4本)の内の2本をボックス上部の取り付け穴に仮止めします。
- 2 仮止めされたネジにプレートを引っかけます。プレート側のリード線がプレートとボックスの間に挟まれていないか確認してください。
- 3 プレート下部2カ所および仮止めした上部2カ所を固定します。
- 4 プレート側リード線のハウジングを端子台のタブに差し込んで結線します。

端子配置とリード線の色

リード線色	黒	黒	青	赤	灰	橙	赤	青	赤	青	桃
端子記号	PU	PV	BKC	BKF	T	A	C	L	C	L	TC
機器	表示灯	ベル	S+, S-はR型						R型		
発信機											



ハウジングを差し込む際のご注意

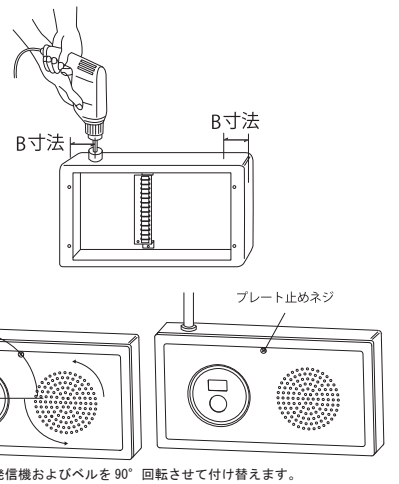
- 完全に接合させるため、ハウジングを所定のタブへ差し込んだ(①)後、リード線を更に押し込んで(②)ください。
- 差し込みが不十分ですと、接触不良等の原因になりますので、完全に差し込んでください。
- 差し込み後、リード線がベルに当たらないようにしてください。

注意 各端子への外線接続は、所定の定格容量・極性に従って正しく行ってください。誤った場合、故障や発火の原因となります。

■ 横型で使用する場合

※プレート止めネジが上になるよう、取り付けます。(発信機が左側になります)

- ① 露出型の場合は、ホールソーで配管用の穴をあけてください。(B寸法は、ボックスの端から25mm。)
- ② 発信機およびベルが正立するよう向きを付け替えます。



注意 ボックスに直接穴をあける場合は、切りくずが端子や回路部に入り込まないように、十分注意してください。ショートや故障、発火の原因となります。

■ 防雨型機器収容箱の場合

- ① 露出ボックス型
ボックスと壁面との接合部を全周コーキング処理してください。
- ② 埋込ボックス型
プレートと壁面との接合部を全周コーキング処理してください。

注意 コーキングは全周すき間がないように処理してください。浸水により、腐食や故障の原因となります。

